

第 16 回 市民動物園会議

平成 24 年 10 月 29 日 (月)

16 : 00 ~ 18 : 00

円山動物園プラザ

< 次 第 >

- 1 平成 24 年度上期来園者状況について
- 2 アジアゾーンについて
- 3 前会議における各委員からの意見について
- 4 新着動物等について
- 5 その他

【配布資料】

- | | |
|------|---------------------|
| 資料 1 | 来園者状況 |
| 資料 2 | アジアゾーンの概要 |
| 資料 3 | 前会議における各委員からの意見について |
| 資料 4 | 主な新着動物・出産状況等 |

来園者状況

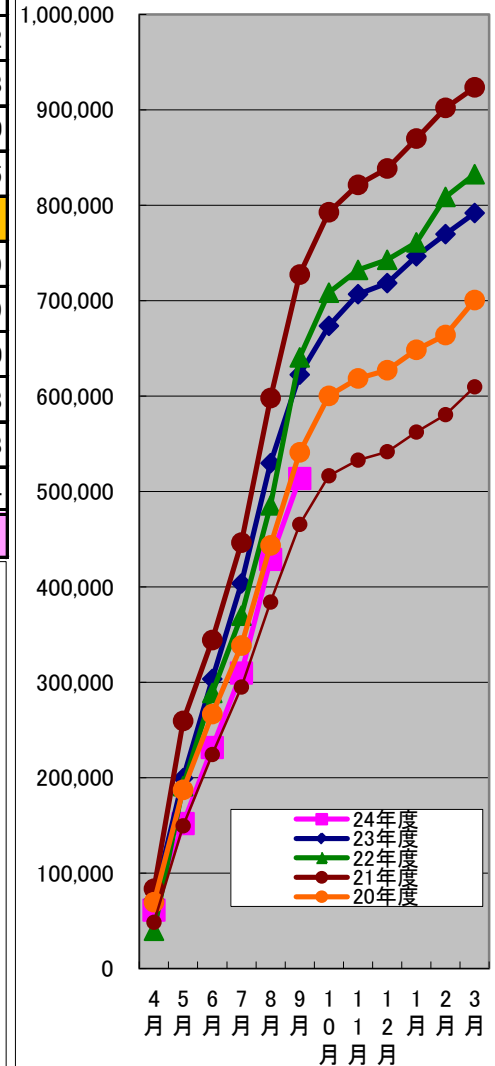
◆月別合計来園者数比較

月計	24年度	前年度比	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度
4月	61,201	84.9%	72,066	39,570	83,593	69,473	48,482
5月	90,717	71.2%	127,432	151,529	175,899	117,781	101,049
6月	79,698	76.7%	103,931	97,718	84,734	79,435	74,761
7月	78,024	77.9%	100,141	80,939	102,111	71,801	70,716
8月	119,134	94.5%	126,030	115,635	151,523	104,934	89,032
9月	84,731	91.4%	92,733	155,072	129,400	97,537	81,415
10月			51,146	67,797	65,337	59,170	50,934
11月			33,220	23,888	28,686	18,300	16,430
12月			11,613	10,588	17,169	8,599	8,831
1月			28,127	18,255	31,363	21,389	20,568
2月			23,202	47,634	32,157	15,490	18,250
3月			22,113	23,794	21,531	36,649	29,146
4-9計	513,505	82.5%	622,333	640,463	727,260	540,961	465,455
合計	513,505		791,754	832,419	923,503	700,558	609,614

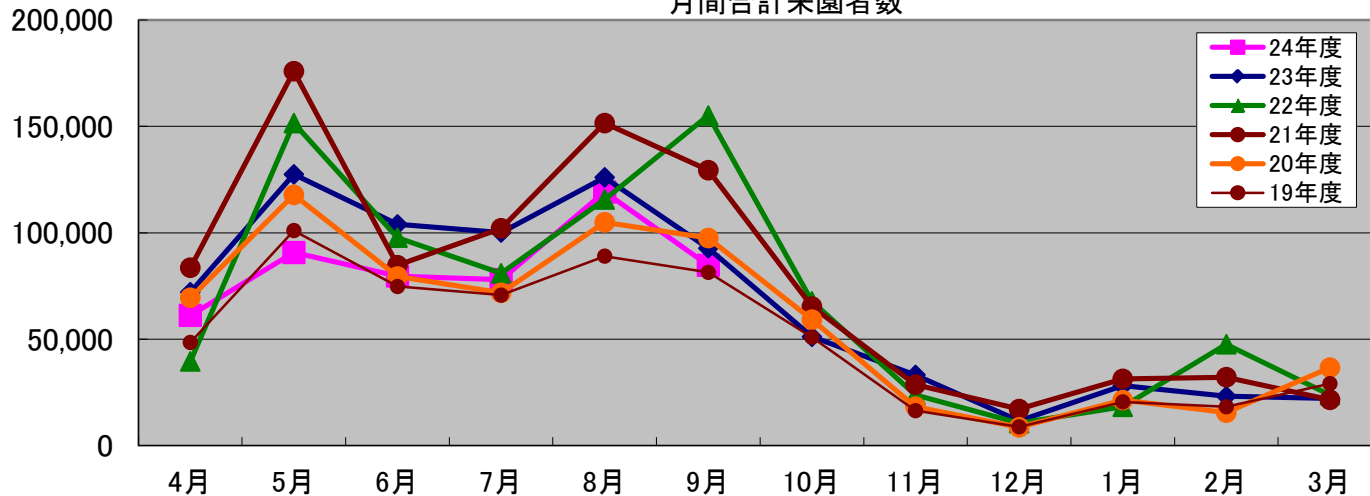
◆累積グラフ

累計	24年度	23年度	22年度	21年度	20年度	19年度
4月	61,201	72,066	39,570	83,593	69,473	48,482
5月	151,918	199,498	191,099	259,492	187,254	149,531
6月	231,616	303,429	288,817	344,226	266,689	224,292
7月	309,640	403,570	369,756	446,337	338,490	295,008
8月	428,774	529,600	485,391	597,860	443,424	384,040
9月	513,505	622,333	640,463	727,260	540,961	465,455
9月時点 前年度比	82.5%	97.2%	88.1%	134.4%	116.2%	-
10月		673,479	708,260	792,597	600,131	516,389
11月		706,699	732,148	821,283	618,431	532,819
12月		718,312	742,736	838,452	627,030	541,650
1月		746,439	760,991	869,815	648,419	562,218
2月		769,641	808,625	901,972	663,909	580,468
3月		791,754	832,419	923,503	700,558	609,614
3月時点 前年度比		95.1%	90.1%	131.8%	114.9%	-

累計来園



月間合計来園者数



アジアゾーンの概要

1 施設の特徴

「アジアゾーン」は、地理や気候の違いなどアジアの環境の多様性ととも、希少種の保存や生息域保全の大切さを伝えることを目的とした施設であり、「寒帯館」・「高山館」・「熱帯雨林館」の3棟で構成されます。

展示方法は、動物が生息している自然環境をできるだけ再現し、動物本来の行動を引き出すとともに、動物と観客のいる場所が一体となって感じられる「生息環境展示」を採用しました。

屋内の観覧スペースを広く設け、屋内からも外放飼場にいる動物をご覧いただけるようにし、季節や天候に関わらずゆっくりと観覧をお楽しみいただけます。

※円山動物園では、展示エリアごとに伝えるべきメッセージを設けるゾーニング化を進めることとし、北海道・北方圏ゾーン（エゾシカ・オオカミ舎、エゾヒグマ館）、野生復帰・自然体験ゾーン（猛禽類野生復帰施設、動物園の森）、は虫類・両生類館などの充実を進めてきました。アジアゾーンはこれらに続く展示充実であり、今後はアフリカゾーンに着手する予定です。

2 施設の概要

- | | |
|--------------|---|
| (1) オープン日 | 平成 24 年（2012 年）12 月 12 日（水） |
| (2) 総工費等 | 1, 282, 300 千円（平成 23～24 年度予算）、敷地面積約 10, 000 m ² |
| (3) 建物及び展示動物 | 合計 1, 877 m ² 展示動物 13 種類 |
| 「寒帯館」 | 延床面積 540 m ² （RC 平屋建）
展示動物 2 種（アムールトラ、ユキヒョウ） |
| 「高山館」 | 延床面積 393 m ² （RC 平屋建）
展示動物 2 種（ヒマラヤグマ、レッサーパンダ） |
| 「熱帯雨林館」 | 延床面積 944 m ² （RC 平屋建）
展示動物 9 種（マレーグマ、シシオザル、クロザル、テナガザル、カンムリシロムク、コツメカワウソ、アジアアロワナ、インドオオコウモリ、マレーバク） |
| (4) 新エネルギー | |
| 「寒帯館」 | 屋上に 10 k w の発電能力を有する太陽光発電設備を設置し、館内の電力を賄い、余剰電力が生じた場合には隣接する施設へも給電します。 |
| 「高山館」 | ヒマラヤグマの外放飼場裏手に雪の貯蔵場所を設け、その融雪水を使い、レッサーパンダの屋内エリアを冷房する雪冷熱システムを設置します。また、このシステムによる冷風を体感頂ける吹き出し口も備え付けます。 |
| 「熱帯雨林館」 | 環境に優しい、木質バイオマスを使ったペレットボイラーを設置しています。このボイラーで作られる温水を館内の暖房に活用します。 |

3 主な見どころ

(1) 寒帯館

○シベリアのタイガの森に生息するアムールトラの展示では、雪の中、木々の間を悠々と歩く姿を、室内からガラス越しでゆっくりとご覧いただけます。

暑い夏には木陰で寝転んだり、水浴びする様子を間近で観察できます。

○ヒマラヤ山脈など山岳地帯に生息するユキヒョウの展示では、高い岩場を再現した。ユキヒョウが岩場に勢いよく駆けあがる様子をご覧いただけます。また、屋外の放飼場には、ユキヒョウの体を下から檻越しに覗けるスポットがあります。【図1】

(2) 高山館

○イランやネパール、中国などに生息するヒマラヤグマが、高い丘に登ったり木登りしたりする様子をご覧いただく。暑い夏には、水遊びをする様子をガラス断面から間近で見ることができます。

○中国四川省などに生息するレッサーパンダが、屋外のハルニレの大木や吊り橋の上に登る様子をご覧いただけます。また、屋内展示場では、来園者の頭上に設けられた「渡り木」の上をレッサーパンダが行き来する様子や、一部、ガラス面の上を歩く様子を下から観察できます。【図2】

(3) 熱帯雨林館

○熱帯雨林の哺乳類、鳥類、魚類といった多様な動物を展示します。屋内展示場は、熱帯雨林の雰囲気の中を探索しながら、動物たちの声・ざわめきなどを感じていただける展示となっています。また、各所に隠された動物達の足跡や糞、木の実などのレプリカを探しながら館内を回ることができます。【図3】

○暖かい季節には、屋外展示場にて、テナガザルが池に囲まれた島まで木々の間を抜けて長い手を使って移動する様子や、マレーバクが池で水浴びしたりマレーグマが木登りしたりする様子を同時に眺めることができます。

【図1】



【図2】



【図3】



	No.	動物種	生態等
寒帯館	1	アムールトラ EN	アムール、ウスリ地方に生息し、全長 4m、体重 350kg に達するトラの仲間では最大級のものである。通常は単独で生活し、シカ類やイノシシ、サル、は虫類など様々な動物を獲物としている。生息数が激減し、野生下では現在約 450 頭と推定されている。
	2	ユキヒョウ EN	中央アジアからヒマラヤ山脈などの高原や山岳地帯に生息している。冷たく滑りやすい雪の上を歩けるように、足の裏の肉球部分に毛が生えている。大きな手足と長く太い尾を使って俊敏に岩場を動き、野生のヤギ・ヒツジ類を獲物として狩りをする。
高山館	3	レッサーパンダ VU	中国南部からミャンマー北部にかけて、冷涼で湿潤な亜高山帯の森林に生息する。夜行性で、鋭い爪を持ち木登りを得意とする。昼間は樹上で眠っていることが多く、単独で行動する。雑食性で竹、木の実、きのこ、昆虫などを食べる。
	4	ヒマラヤグマ VU	イランからヒマラヤ地方、インドシナ半島の森林地帯に生息しており、日本のツキノワグマはこの亜種である。体毛は黒くて長く、胸に白い三日月型の斑紋がある。木登りを得意とし、主食は果実や草木、樹木の若芽などのほか、アリなどの昆虫も食べる。
熱帯雨林館	5	マレーグマ VU	ミャンマー、タイ、インドネシアなどの東南アジアの熱帯雨林に生息する。クマの仲間の中で最も小さい種類で、毛は短く胸に白い三日月型の模様がある。前肢に鋭い鉤爪を持ち、木のぼりを得意とする。夜行性で、果実や小動物、昆虫などを食べる。
	6	マレーバク EN	バクは中南米に3種類、アジアに1種類生息するが、円山動物園にいるのは、アジアに生息しているものである。森林内の水辺に生息し、外敵に襲われると水の中へ逃げ込む。白と黒の独特の体色は、活動時間の夜の森林内で保護色になると言われている。
	7	テナガザル EN	インドシナ半島、マレー半島、スマトラ・ボルネオ島の熱帯雨林に生息し、オスメスに子どもを加えた4頭程度の小さな群れで暮らす。非常に大きな声で鳴くことで知られており、名前の「ワウワウ」もその鳴き声に由来する。草食性で、果実、葉、花などを食べる。
	8	クロザル CR	インドネシアのスラウェシ（セレベス）島の熱帯雨林に生息し、樹上を中心に生活する。オナガザル科に属するサルだが尾がない。全身の毛の色は黒で、頭に冠毛があり、毛が立っているようにも見える。野生では、果実などの他に昆虫や小動物などを食べる。
	9	シシオザル EN	インド南部の森林に複数のオスとメスから成る群れで生息する。黒い体毛で、顔の周りにタテガミ状の灰色の毛が生えている。尾の先に房状の毛があり、ライオンの尾を連想させることから、「獅子尾ザル」の名の由来となっている。果実や木の実、昆虫などを食べる。
	10	コツメカワウソ	インド、中国、東南アジアに棲むイタチの仲間、最も小型のカワウソです。水中生活に適応した体をしており、肢に水かきもあります。両前肢をつかって餌を器用につかんで口に運びます。
	11	インドオオコウモリ	インド・スリランカ・ミャンマーに分布し、昼間は大きな木に多数集まり休息し、夕方になると主食の果実を求めて活動を始めます。小型のコウモリのように超音波を出して獲物の位置を確かめること（エコーロケーション）はできません。目が大きく発達し、有視界飛行をしています。
	12	カンムリシロムク	バリ島の固有種で、低地の熱帯サバンナに小群ですみ、虫などの小動物や果実などを餌としています。時折、頭の冠を逆立てるディスプレイを行います。近年の生息地の開発とその美しい羽色ゆえに飼鳥として乱獲されたことから激減しています。
	13	アジアアロワナ	マレーシアやインドネシアに生息しています。幻のアロワナや幸福を呼ぶ魚として珍重され、その結果、乱獲によって生息数が減少している。

※ インドオオコウモリを除く 12 種は、国際的な絶滅危惧種に指定されている。（IUCN 国際自然保護連合のレッドリストにより指定。）

※ No.10～13 の動物は、新たに展示する動物

アジアゾーン広報・PRイベントについて

1 広報事業

(1) ポスターデザインの公募プロポーザル

概要：PRポスターのデザインをプロポーザル方式で決定し、デザイン性の高いものを選定する。作成したポスターは地下鉄隔駅等に掲出。

時期：9月19日公募、10月17日決定、11月より各所掲出

(2) HP、プレスリリースでのカウントダウン

概要：HP及びプレスリリースで、アジアゾーンオープンまでの日数をカウントダウン方式でお知らせすることにより、オープン日の周知と期待感を盛り上げる。

時期：9月7日～12月12日

(3) チラシ作成

概要：日糧製パンとのコラボにより、A4三つ折りのチラシを作成。広告枠を設け、費用については日糧製パン負担とする。20万部作成予定。

時期：9月作成開始、11月初旬完成

(4) 動物園だよりへの掲載

概要：12月12日発行の動物園だより冬号の表面をすべてアジアゾーンの記事とする。

時期：11月作成、12月発行

(5) 広報さっぽろへの掲載

概要：広報さっぽろ12月号にアジアゾーンオープンについて1ページ記事を組んでもらう。

時期：11月上旬作成、12月1日発行

(6) シネアド・地下歩行空間での映像広告や大通ビッセでのパネル展示

概要：市立大と協議の上、PR映像を作成し、シネアド、地下歩行空間にて放映する。大通ビッセ（北洋銀行本店1階）のPRスペースでパネル展示を行う。

時期：12月中旬

2 イベント事業

(1) 大型スーパーでのPRイベント

概要：マルヤマクラス（11/11（日））、三井アウトレットパーク（11/23（金））、イオン札幌発寒店（12/2（日））、アリオ札幌（未定）にて、マルヤママンショーやクイズ大会と合わせ、PRイベントを実施する。

時期：11月～25年2月 各スーパーとの協議により決定する

(2) 地下歩行空間でのPRイベント

概要：地下歩行空間にてチラシ、ノベルティの配布等を行いアジアゾーンオープンの周知を図る。

時期：11月中旬～12月下旬

(3) アジアゾーンオープン記念式典

概要：市長、ネーミングライツ企業社長、市立大学長、大倉山・円山小学校児童と調整を図りオープン記念式典を行う。

時期：12月12日

(4) アジアゾーングランドオープン記念イベント

概要：アジアゾーン熱帯雨林館屋外放飼場のオープンにあわせ、アジアに関連した料理や雑貨等を取り扱う出店やアジアに関する催しを行い、賑わいを創出する。

時期：25年4月

3 内覧会

(1) マスコミ向け内覧会

概要：施設引き渡し後及びオープン前にマスコミ内覧会を実施し、オープンまでの過程についても取材してもらう。

時期：10月26日（金）、12月上旬 建物の引き渡し時期や動物の移送の状況により判断

(2) ブロガー、SNS 利用者向け内覧会

概要：ブログやツイッターなどの利用者を招待し、ブログ記者として情報を発信してもらう。

時期：11月上旬募集、11月中旬選定、12月上旬内覧（マスコミ内覧後）

(3) 漫画家向け内覧会

概要：札幌市在住（出身）の漫画家を招き、アジアゾーンを視察してもらうことで、アジアゾーンでの絵画教室、絵画展、漫画執筆依頼等へつなげていく。

時期：12月上旬

(4) 大手企業の支店長クラス対象の内覧会

概要：札幌在住の大手企業の支店長クラスを対象に内覧会を実施し、支店従業員や道外の家族等へPRしてもらう。

時期：12月上旬

アジアゾーン見取り図

アジア門 (仮称)

は虫類両生類館

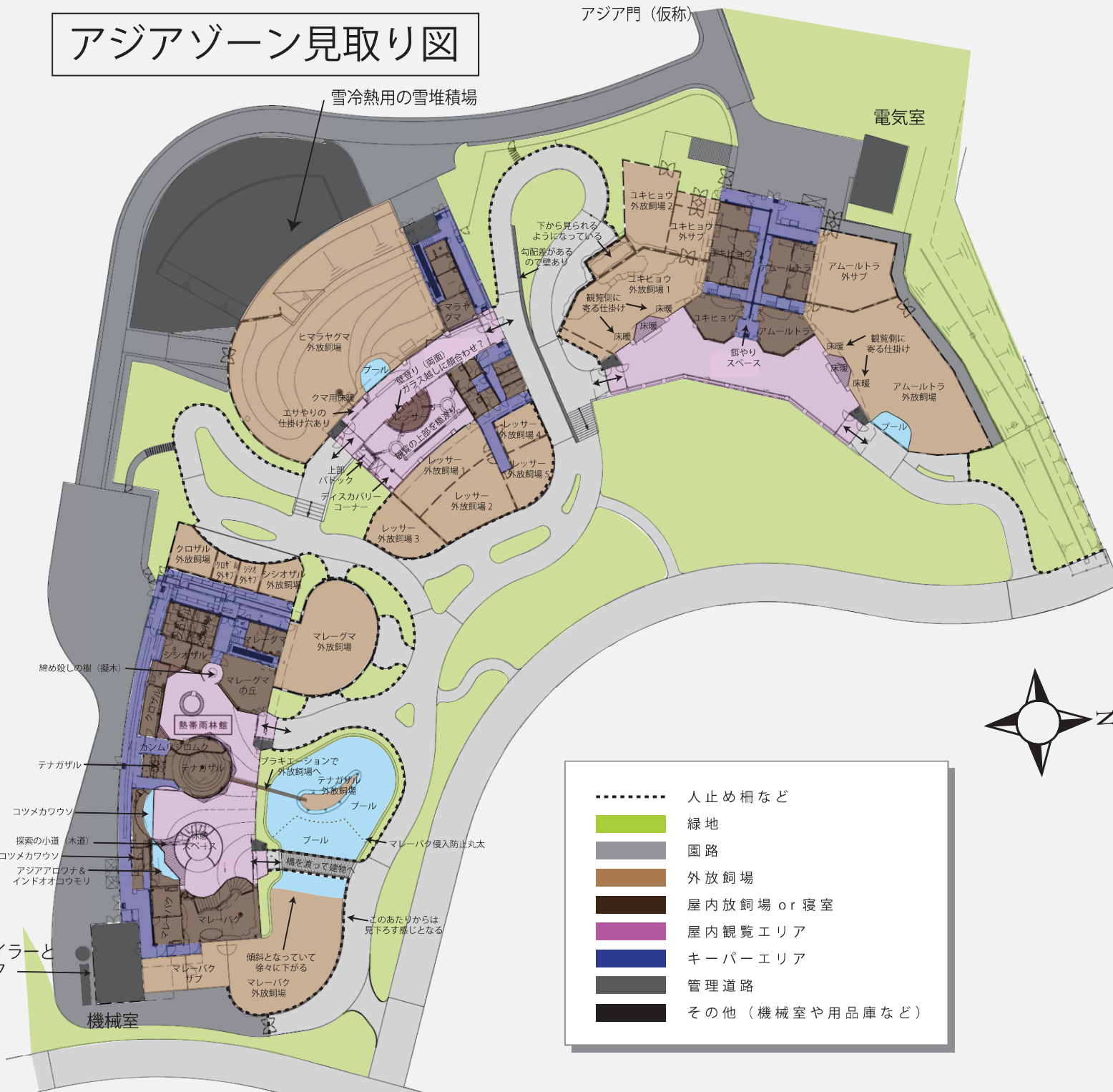
ペレットボイラーと
タンク

機械室

雪冷熱用の雪堆積場

電気室

西門



- 人止め柵など
- 緑地
- 園路
- 外放飼場
- 屋内放飼場 or 寝室
- 屋内観覧エリア
- キーパーエリア
- 管理道路
- その他 (機械室や用品庫など)



第15回市民動物園会議における各委員からの意見について

項目	意見等	動物園としての考え
1 イベントについて	<p>①アジアオープンイベントはいつ実施するのか。暖かい春に行った方が効果的ではないのか。</p> <p>②アフリカウィーク、アジアウィークなど一定期間、特定のゾーンにスポットを順にあてていき、ニュースを自ら作ってはどうか。</p> <p>③動物とのふれあいなどの参加型のイベントを検討してほしい。</p> <p>④ステッカーをつくり、地下鉄の1車両に3枚ぐらいステッカーを張ってはどうか。</p> <p>⑤シニア層が先生として主催できるワークショップを行ってみてはどうか。</p>	<p>①②2012年12月12日にアジアゾーンをオープンする。ただし、熱帯雨林館の屋外放飼場は、冬期は閉鎖していることから、完全なオープンには雪が融けてからとなる。そのため、完全オープンによる「アジアゾングランドオープンイベント」をゴールデンウィークに行う予定である。</p> <p>なお、アジアゾングランドオープンイベントは、アジアの食や文化にスポットを当てることによりアジアを連想させるイベントとし、今後のゾーンごとの特集については、当該イベントの結果を踏まえながら検討していきたい。</p> <p>③ご意見も踏まえ、秋まつりでは、餌やり体験付きの動物ガイドを実施したところ。現在、ドキドキ体験において動物とのふれあいなどの参加型のイベントの拡充を検討している。なお、ふれあい体験を充実させるため、こども動物園で飼育しているヒツジを3匹から6匹に増やしたところである。</p> <p>④地下鉄に関しては大通駅東西線ホームなど10か所に電照広告を増設した。現在、アジアゾーンオープンのポスターを作成しているところであり、11月から市内地下鉄駅構内に掲出する予定である。</p> <p>⑤ワークショップについては、様々なイベントに組込み実施することができないか検討しているところである。</p>
2 広報について	<p>①Twitter、Facebookを開始するのか。</p> <p>②は虫類・両生類館をもっとPRすれば集客できるのではないか。</p>	<p>①②SNSについては、これまでにSNS検討会議を開催するなど、実施に向けた具体的な検討を行っているところである。SNSや様々なメディアを活用しながら、本園の魅力をさらに多くの人に発信していきたい。</p>
3 企業誘致、誘客について	<p>①企業のCSR活動を誘致するアイデアはあるのか。</p> <p>②ツアー客の誘致は行わないのか。</p> <p>③子どもの誘致のため学校向けにPRすることはないのか。</p>	<p>①②③イベントをはじめ様々な事業について企業協賛を個別営業し実施しているところ。現在、営業用のパンフレットを作成しているところであり、今後とも関係機関と連携しながら集客に向け、積極的に営業していきたいと考えている。なお、アジアゾーンの広報として、大手企業の支店長クラス対象の内覧会を行う予定である。</p>
4 園内施設の充実について	<p>①写真スポットをつくり、その写真を貼るアルバムのようなものをつくってはどうか。</p> <p>②動物園内にスタンプを置き、動物園オリエンテーリングを実施してはどうか。</p>	<p>①②本年4月に、フクロウとタカの森となりにフォトスポットを開設したところであり、概ね好評をいただいている。スタンプラリーについては夏期間やイベント時に実施しているところであり、今後も充実を図りたい。</p>

主な新着動物・出産の状況

月 日	内 容
6月4日～7月25日	エゾユキウサギが出産（4腹で12頭出産のうち6頭は死産）
6月6日	シロテテナガザルのオス「コタロー」を旭山動物園から借入
6月8日	エゾモモンガが2頭出産
6月26日	エゾリスが5頭出産
6月11～30日	リスザル5頭出産（うち2頭は死産）
7月12日	アルマジロトカゲ2頭を周南市徳山動物園から導入
7月19日	エゾヒグマのオス「大」を旭山動物園から譲受
7月20日	シセンレッサーパンダ「ココ」が出産 メス2頭が成育中
7月23日	ガビアルモドキ2頭を野毛山動物園から移管
7月26日、8月2日	スペングラーヤマガメが2頭ふ化
8月22日	インドオオコウモリのメス1頭導入
8月22日	シロフクロウのメス「アンナ」導入
8月29日	コリデール（メンヨウ）メス3頭を購入
9月18日	コケガエル5頭、マダガスカルキンイロガエル7頭を上野動物園から導入
9月21日	チリーフラミンゴが一羽ふ化
10月11日	ドイツ・ケルン動物園からコツメカワウソの雌が来園

主な転出動物・死亡の状況

月 日	内 容
6月25日	トッケイヤモリのオス1頭死亡
6月27日	オオワシのメス1羽をロシア・モスクワ動物園に譲渡
7月21日	クモノスガメのオス1頭死亡
7月30日	スローロリスのオス「ミニー」死亡
9月5、12、18日	エゾユキウサギが死亡（3頭）
10月22日	ゼニガタアザラシのメス「さくらこ」死亡